

2018 4.28 [土]

メディアガーデンプレス

www.mgpress.jp

02 暮らし 「草間展」グッズも好評

06 地域 穂高で「こどもまつり」

11 若者 豪州の高校生と交流

記事中、市外局番のない電話番号は0263地域です

MG

プレス

Sat. 信州の真ん中から発信

松本市・塩尻市・安曇野市・大町市・東筑摩郡・北安曇郡・木曾郡

【お問い合わせ】 〒390-8585 松本市中央2-20-2 ●編集 ☎0263-32-1139(代) FAX0263-32-3388 ●広告 信濃毎日新聞松本本社 ☎0263-32-2860 MGプレス ☎0263-32-5539 FAX0263-32-5599



ワーズアップ。

にぎわうバッティングセンターの屋台骨となるレトロなビッチングマシン。手はかかるものの、人の手で調整がしやすいという

大北唯一のバッティングセンター

地域とつながり願い 頑張る昭和のマシン

「カキーン」。北アルプスを西に望むゲージから、軟式野球ボールを快打する音が響く。ここは、大町市にある「がんばりやさんバッティングセンター」。同市常盤の「第2共同作業所がんばりやさん」の利用者や職員で運営している、大北地域唯一のバッティングセンターだ。

1978（昭和53）年から始まったセンターは3年前に閉鎖。2016年8月に再開した時にビッチングマシンも引き継いだ。年季の入ったマシンは、メダルが詰まったり、ボールがアーム部分までうまく運ばれなかったりと手がかかる。にぎわう週末には、職員が

マシンの並ぶネット裏に常駐し、調整に追われる。地域とのつながりを強め、プロ選手が生まれるようにとの願いを込めて運営を続ける。（天山博）

03面に続く

子どもにプロ目指してほしい クローズアップ (01面から続く)



バッティングを楽しむ子どもたち

がんばりやさんバッティングセンター 大町市

週末になると、市内外から「打ちたい盛り」の野球少年らが「がんばりやさんバッティングセンター」に集まる。月に1回のペースで通っているという安曇野市穂高東中学校1年生の望月慎ノ介さん(12)は「ここに通い、ヒットもたくさん打てるようになってきた」とうれしそう。「夢はもちろん、プロになること」

「野球を見るのが好き」という、作業所利用者でセンターでも働いている勝野久美子さん(37)は「友達や家族で誘い合っ

て、もっともっと多くの

人に使ってもらいたい」と願う。「バッティングを見たり、打球の音を聞いたりするのは楽しい。ここからプロ選手が生まれたらすごくうれしい」と話す。

この場所では市内の男性がバッティングセンターとラーメン店の併設店を営んでいたが、3年前に閉店。地域に唯一の場がなくなったことを惜しむ声を聞いて、がんばりやさんを運営するNPO法人「北アルプスの風」の障がい福祉部長、松澤重夫さん(43)が、設備を引き継ぐことを決断した。松澤さんは元高校球



「頑張ってる。カウンターでお客さんにメダルを渡す作業所の利用者」

児だ。

第2共同作業所ががんばりやさんは、福祉契約と雇用契約を利用者と結び、自立を支援する就労継続支援A型の事業所。

「多くの人が訪れれば、事業所や利用者のことを地域に理解してもらい、ここにもつながる」と松澤さん。

バッティングに必要なメダルは、中学生までなら1枚100円(それ以上は200円)で25球打てる。メダルも手渡しで、事業所の利用者の仕事にもなっている。利用料を安くしたのは、地域の人にたくさん使ってもらい、子どもたちにプロを目指してほしい、という地域貢献の思いからだ。ただし、稼働しているマシンは球速80〜120

は感じない」と話す。マシンの修理や買い換えを目指し、ポスト型の「ぼきんぼ」がカウンターに置かれている。

昨年5月には、併設店舗でラーメン店「アルプスラーメンがんだりやさん」も開業。営業はバッティングセンターの店番に入る利用者として職員が掛け持つ。昔ながらの味がする「醤油(しょうゆ)らうめん」(680円)など、メニューは多彩だ。

今後は両施設を連携させて、利用者増を目指す。同が「がんばりやさん」責任者の下川真貴さん(46)は「ラーメンを食べた人にはメダルをプレゼントすることなどを検討したい」と、遊びながら空腹も満たせるような場所にするための策を練っているところだ。

バッティングは午前10時半〜午後7時(平日は午後2〜4時半が中休み)。ラーメンは午前11時〜午後2時、5〜7時半。水曜定休。バッティングは冬季休業。☎0261・85・2023



カウンターに設けた募金箱